

第4期

平成26年度

報告書

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



サノヤスホールディングス

証券コード：7022

不確実性の時代だからこそ「人財」を磨く

株主・投資家の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

サノヤスは持株会社のもと、造船事業を“コア事業”と位置付ける一方、造船事業以外の陸上事業をはじめとする様々な事業を“第2のコア事業”と位置付け、事業展開を図っています。

現在、造船業界においては新造船の需給が悪化し、極めて厳しい事業環境が続いておりますが、これを補うように陸上事業の収益力が回復しつつあります。平成21年の社長就任以来目指してきた、造船事業と陸上事業等とのバランスのとれた事業体としての強みが発揮できていると実感しています。

不確実性の時代こそ、「人財」が企業の盛衰を決める、と私は考えています。チャンスを実確なものにするためにも今こそ社員一人ひとりの技術や能力を磨き続け、「良い会社(good company)」を創り上げてまいります。



代表取締役社長

上田 孝

3つのポイント

- 1 売上は微増ながら、円安、コスト削減効果などで当期純利益は1.8倍に。
- 2 新造船は操業スローダウン施策のもと、向こう3年分の受注残を確保。
- 3 陸上事業ではグループ再編、買収に取り組み、“第2のコア事業”を強化。

円安、コスト削減で 当期純利益は1.8倍に

平成27年3月期の連結業績は、売上高が487億6百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は22億70百万円(同32.3%減)、経常利益は21億89百万円(同35.7%減)、当期純利益は17億38百万円(同79.0%増)となりました。

売上高については、造船事業において主に円安の影響で新造船部門が増収となったほか、改修船やLPGタンクの売上増が寄与しました。陸上事業では、高層建築の増加に伴う工事用エレベーターの販売・レンタルが増えたほか、後述のとおり駐車装置のメンテナンス取扱高が拡大しました。

利益面については、期初に発表した連結業績予想の値を大きく上回りました。これは、円安効果の恩恵を受けたこと、原価低減による採算性の向上が寄与したことによるものです。

新造船は向こう3年分の受注を確保

海運・造船業界は、オイルショック、プラザ合意による円高に次ぐ戦後3回目の構造転換期に直面しています。「船腹の過剰」と「建造能力の過剰」という二つの過剰に直面しており、海運、特にバルカー市況は歴史的な低水準で推移し、船価も低迷を続けています。

こうした厳しい環境のなか、当社は顧客ニーズに



平成27年度 新入社員とともに

即した製品を開発し、60千重量トン型スプラマックス、82千重量トン型パナマックス、117千重量トン型ハンディーケープに加え、平成27年3月期は新たに世界最高水準の省エネ性能を誇る89千重量トン型ポストパナマックス・バルクキャリアーを市場投入いたしました。

また、受注を多く抱えることのリスクを考慮し、あえて操業を落とすスローダウン施策をとっています。平成27年3月期は9隻受注、新造船は向こう3年分の受注を確保し、その分余力のできた水島製造所のドックを改修船用に充て、需要を取り込んでいきます。

今後は、新造船のさらなるコストダウンに努めるとともに、国際的な造船の規則改訂に対応した開発を進め、来るべきチャンスに向け、しっかりと準備を進めているところです。

“第2のコア事業”は再編、 買収で体質強化

陸上事業については、経営課題である収益力拡大に向け、さまざまな施策をとっています。

平成26年4月には機械式駐車装置事業を営むサノヤス・エンジニアリング(株)が、古河産機システムズ(株)からの吸収分割による事業承継によってメンテナンス事業の拡大を図りました。また同年11月には機械部品製造の加藤精機(株)を完全子会社化し、ケーエス・サノヤス(株)との2年後の合併を視野に入れ、2社を傘下に持つ中間持株会社サノヤス精密工業(株)を設立しました。一方、成長策として、平成27年3月に(株)大鋳を買収し、新たにショットブラストマシンの製造事業に参入しました。

レジャー事業については、オーストラリアのメルボルン大観覧車の開業から2年目を迎え、今後進展する周辺施設の整備に合わせ収益機会が拡大するものと見込んでいます。

“人財”を磨き上げ、 不確実性の時代を生き抜く

主力の造船事業はますます不透明感を増し、“第2のコア事業”も各市場において優勝劣敗が明確になってくると考えています。

このような不確実性の時代を生き抜くためには、「人財」こそが基軸になります。私は、社長就任以来、

原点に還ってやるべきことの意味を考え、実践する「基本に還る」、そして変化の激しい時代に行動様式を変える「自分を変える」の「二つのカエル」を推進しています。併せて若手の人財を積極的に採用・登用するとともに、階層ごとの研修の強化を図りました。

また、売上、利益といった定量的な指標だけでなく、安全・品質や新規顧客開拓率など定性的な指標を目標に据えた総合業績評価制度を導入し、各事業の“自立と自律”を促しています。

なお、次期の連結業績見通しにつきましては、売上高518億円、営業利益12億円、経常利益10億円、当期純利益5億円を見込んでいます。

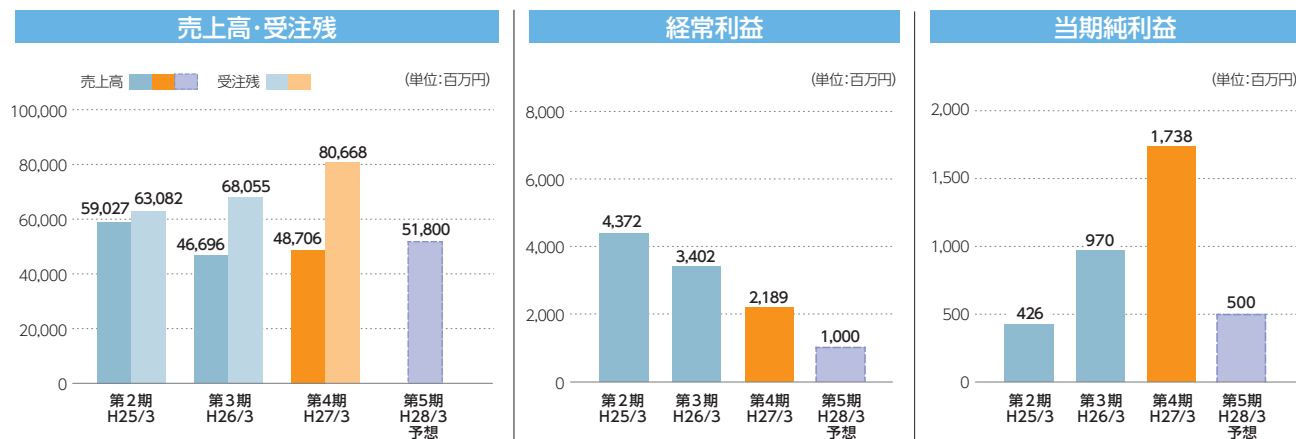
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



(単位：百万円)

	第2期	第3期	第4期	前期比
	平成25年3月期	平成26年3月期	平成27年3月期	増減額／増減率
経営状態				
売上高	59,027	46,696	48,706	4.3%
営業利益	4,407	3,354	2,270	△32.3%
経常利益	4,372	3,402	2,189	△35.7%
当期純利益	426	970	1,738	79.0%
受注残	63,082	68,055	80,668	18.5%
財政状態				
総資産	69,454	69,022	68,160	△862
純資産	16,193	17,189	18,152	963
自己資本比率	22.1%	23.8%	26.6%	2.8ポイント
1株当たり指標				
当期純利益(円)	13.09	29.80	53.36	23.56
純資産(円)	470.43	504.45	557.18	52.73
配当金(円)	5.0	5.0	5.0	0.0

(注) 受注残の金額は、工事進行基準で記載しております。



造船事業

平成27年3月期 **売上高** 344億54百万円

当期の新造船マーケットにおいては、船腹及び製造設備の過剰という構造問題が継続する中、昨夏以降の海運市況、とりわけバルカー市況の歴史的低迷により、船価は低水準に留まる厳しい状況が続いています。このような状況下、89千重量トン型ポストパナマックス・バルクキャリアーの開発を完了、販売活動を行い、82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー及び60千重量トン型スプ

ラマックス・バルクキャリアーと合わせて9隻の受注を確保しました。その結果、当期末の受注残高は約3年分の777億17百万円となりました。

新造船の引渡は、82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー3隻、104千重量トン型並びに117千重量トン型ハンディーケープ・バルクキャリアー3隻及びチップ船2隻の合計8隻になりました。修繕船等を加えた当該事業の



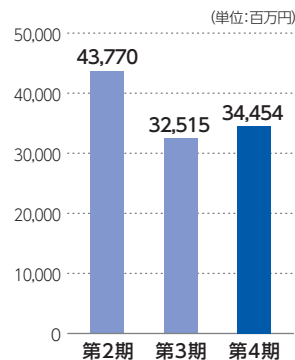
117千重量トン型ハンディーケープ・バルクキャリアー (サノヤス造船㈱)



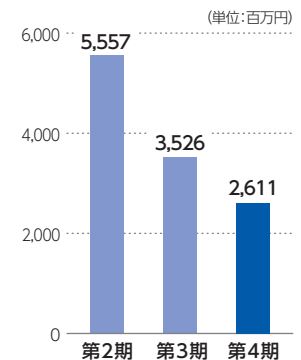
82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー (サノヤス造船㈱)

売上高は、改修船・LPG船用タンク製造及びプラントの売上伸長により前期比19億39百万円(6.0%)増加の344億54百万円となりました。営業利益はリーマン・ショック以降に受注した比較的低船価の新造船の売上計上が多くなったため、前期比9億15百万円(26.0%)減少の26億11百万円となりました。

売上高



営業利益



自航式多目的船を受注

サノヤス造船株式会社 水島製造所では、従来的一般商船の建造に加え、特殊船の建造を含めた船舶改修を本格化させておりますが、この度、約15年ぶりとなる大型作業船の新造船を受注いたしました。今回受注した大型作業船(自航式多目的船)は、船首部に500t吊り全旋回式起重機を装備し、中央に広いカーゴスペースを確保するとともに、船尾に定員52名の居住区を配置しています。また、工事作業中の自動定点保持が可能な装置を有することを特徴としています。今後も水島



自航式多目的船 (イメージ図)

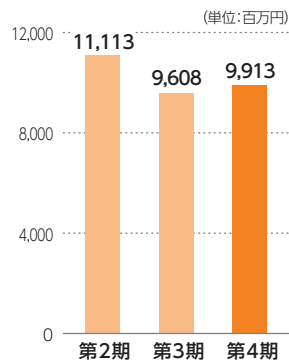
製造所のドックとゴライアスクレーンを活用した大型案件の受注に努めてまいります。

陸上事業

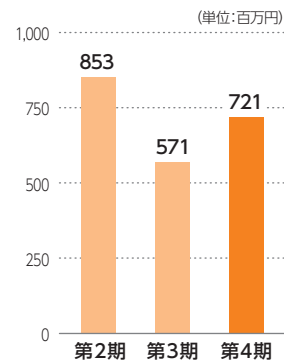
平成27年3月期 **売上高** 99億13百万円

建設工事用エレベーター、機械式駐車装置、機械部品、自動車部品、化粧品製造用機械の製造及び空調・給排水・環境工事を主に手がける陸上事業においては、国内景気の回復基調の中、積極的な開発及び受注活動に努め、当期末の受注残高は28億98百万円となりました。売上高は前期比3億5百万円(3.2%)増加の99億13百万円、連れて営業利益は前期比1億50百万円(26.3%)増加の7億21百万円となりました。

売上高



営業利益



建設工事用エレベーター「HCE-990W」

(サノヤス建機株式会社)



化粧品製造用真空乳化装置

(みずほ工業株式会社)

サノヤス精密工業株式会社を設立

平成26年12月5日、加藤精機株式会社及びケーエス・サノヤス株式会社の統括管理を行う中間持株会社として、サノヤス精密工業株式会社を設立いたしました。

現在、加藤精機株式会社が各種産業用機械部品の精密切削加工・製造を、またケーエス・サノヤス株式会社が自動車部品及び建築部品の切削加工・製造を手掛けており、当社グループの陸上事業において精密



加藤精機(株)

機械加工を主業とする両社の一層の連携強化を図り、取引先へのクロスセルや、人材面・技術面での交流促進による生産管理・商品開発面での強化拡充、管理面の効率化等、シナジー効果を上げることを目的としております。



ケーエス・サノヤス(株)

株式会社大鋳を買収

当社は、平成27年3月2日、ショットブラストマシンの製造メーカーである、株式会社大鋳を買収いたしました。

株式会社大鋳は約半世紀の間、ブラストマシンの専門メーカーとして自動車各社ほか大手産業機械メーカーへ多数の納入実績を有しております。

株式会社大鋳をグループに加えることにより、当社グループの第2のコアビジネスである陸上事業の基盤拡大を図り、中長期的な成長と収益の強化を目指してまいります。



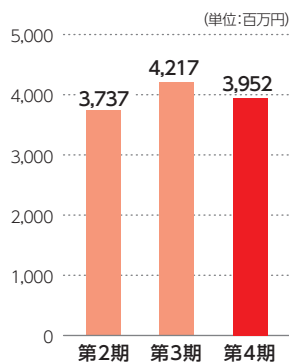
ショットブラストマシン

レジャー事業

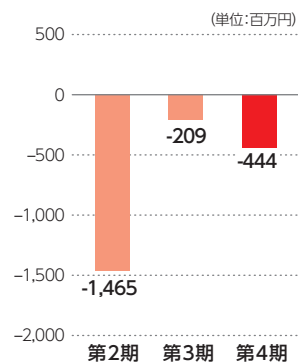
平成27年3月期 売上高 39億52百万円

レジャー事業においては、オリジナル遊具の開発に着手するとともに、機械販売及び遊園地運営に注力しました。しかし天候要因もあって、販売・運営ともに減収となり、豪州観覧車での通年営業による増収では補うに至りませんでした。その結果、売上高は前期比2億65百万円(6.3%)減少の39億52百万円となりました。営業損失は4億44百万円(前期実績は2億9百万円の営業損失)となりました。

売上高



営業利益



城島高原パーク「大航海時代キジマル」

(サノヤス・ライド株式会社)



那須ハイランドパーク「フライングサブマリン」 (サノヤス・ライド株式会社)

白い観覧車が「第1回させぼ景観グッドケアコンテスト」準グランプリ受賞

平成27年3月24日、佐世保市が開催した「第1回させぼ景観グッドケアコンテスト」において、サノヤス・ライド株式会社が平成23年にハウステンボスへ納入した「白い観覧車」が、栄えある準グランプリを受賞いたしました。

させぼ景観グッドケアコンテストとは、「佐世保市景観条例」及び「景観法」に基づき、一連の手続きが完了した申請物件の中から、特に優れた景観の形成に寄与



「白い観覧車」夜景



「白い観覧車」

した物件を表彰する制度です。今回、「白い観覧車」が選考された理由として、“白い観覧車がテーマパークと調和しており、夜の美しさも格別である”との講評を賜り、当社グループが設計・施工に携わった製品が、お客様のみならず地域の皆様からも高い評価を頂くことができました。

これからも皆様に喜ばれる、デザインにこだわりを持ったご提案ができる様、努めてまいります。

連結貸借対照表(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成26年度末 (H27.3.31)	平成25年度末 (H26.3.31)
資産の部		
流動資産	41,285	42,747
現金及び預金	24,256	21,404
受取手形及び売掛金	12,965	17,758
商品及び製品	151	126
仕掛品	1,015	814
原材料及び貯蔵品	637	657
繰延税金資産	28	18
その他	2,250	1,989
貸倒引当金	△20	△22
固定資産	26,874	26,275
有形固定資産	17,981	19,419
建物、ドック船台及び構築物	6,859	7,352
機械装置、運搬具及び工具器具備品	6,131	6,762
土地	4,890	5,232
建設仮勘定	100	72
無形固定資産	1,026	597
投資その他の資産	7,866	6,258
投資有価証券	6,558	5,168
長期貸付金	168	77
繰延税金資産	256	218
退職給付に係る資産	215	76
その他	699	896
貸倒引当金	△32	△178
資産合計	68,160	69,022

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成26年度末 (H27.3.31)	平成25年度末 (H26.3.31)
負債の部		
流動負債	31,449	27,414
支払手形及び買掛金	10,210	8,971
短期借入金	11,256	7,298
1年内償還予定社債	—	30
未払法人税等	252	103
前受金	4,727	6,569
賞与引当金	417	428
保証工事引当金	152	114
受注工事損失引当金	1,944	1,740
その他	2,487	2,158
固定負債	18,558	24,418
長期借入金	11,239	16,844
退職給付に係る負債	3,884	4,522
資産除去債務	441	437
繰延税金負債	2,257	2,205
その他	735	408
負債合計	50,008	51,833
純資産の部		
株主資本	17,171	15,067
資本金	2,538	2,538
資本剰余金	727	727
利益剰余金	13,911	11,807
自己株式	△5	△5
その他の包括利益累計額	979	1,366
その他有価証券評価差額金	2,418	1,683
繰延ヘッジ損益	△1,196	△11
為替換算調整勘定	5	23
退職給付に係る調整累計額	△247	△329
少数株主持分	0	755
純資産合計	18,152	17,189
負債及び純資産合計	68,160	69,022

連結損益計算書(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成26年度 (H26.4.1 ~H27.3.31)	平成25年度 (H25.4.1 ~H26.3.31)
売上高	48,706	46,696
売上原価	41,776	39,096
売上総利益	6,929	7,599
販売費及び一般管理費	4,659	4,245
営業利益	2,270	3,354
営業外収益	458	436
営業外費用	539	387
経常利益	2,189	3,402
特別利益	396	105
特別損失	595	1,350
税金等調整前当期純利益	1,990	2,158
法人税等合計	294	1,310
少数株主損益調整前当期純利益	1,695	847
少数株主損失(△)	△42	△123
当期純利益	1,738	970

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	平成26年度 (H26.4.1 ~H27.3.31)	平成25年度 (H25.4.1 ~H26.3.31)
2 営業活動によるキャッシュ・フロー	7,854	△2,360
3 投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,910	△5,437
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,970	1,534
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	△53
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,991	△6,317
現金及び現金同等物の期首残高	19,821	26,138
現金及び現金同等物の期末残高	22,812	19,821

ポイント

1 純資産・自己資本比率

当期末の純資産は、前期末対比9億62百万円増加し、181億52百万円となりました。また、自己資本比率は、前期末対比2.8ポイント改善し、26.6%となりました。

2 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益・減価償却・仕入債務の増加、売上債権の減少等の増加要因が、前受金の減少、未収消費税等の増加等の減少要因を上回った結果、78億54百万円の収入となりました。

3 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得10億59百万円、子会社株式の取得10億16百万円を主因として、29億10百万円の支出となりました。

会社概要 (平成27年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	平成23年10月3日
資本金	25億3,800万円
従業員	従業員数 44名 (連結 1,562名) 平均年齢 40.9才
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号
東京支社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目3番3号
東京中央支社	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町二丁目1番1号

株式情報 (平成27年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	32,600,000株
	株主数	4,783名

大株主	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
	サノヤス共栄会	3,398,100	10.43
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
	株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
	ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,260,000	3.87
	三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.45
	住友商事株式会社	1,000,000	3.07
	住石マテリアルズ株式会社	920,000	2.82
	新日鐵住金株式会社	844,800	2.59
	三井住友信託銀行株式会社	650,000	2.00

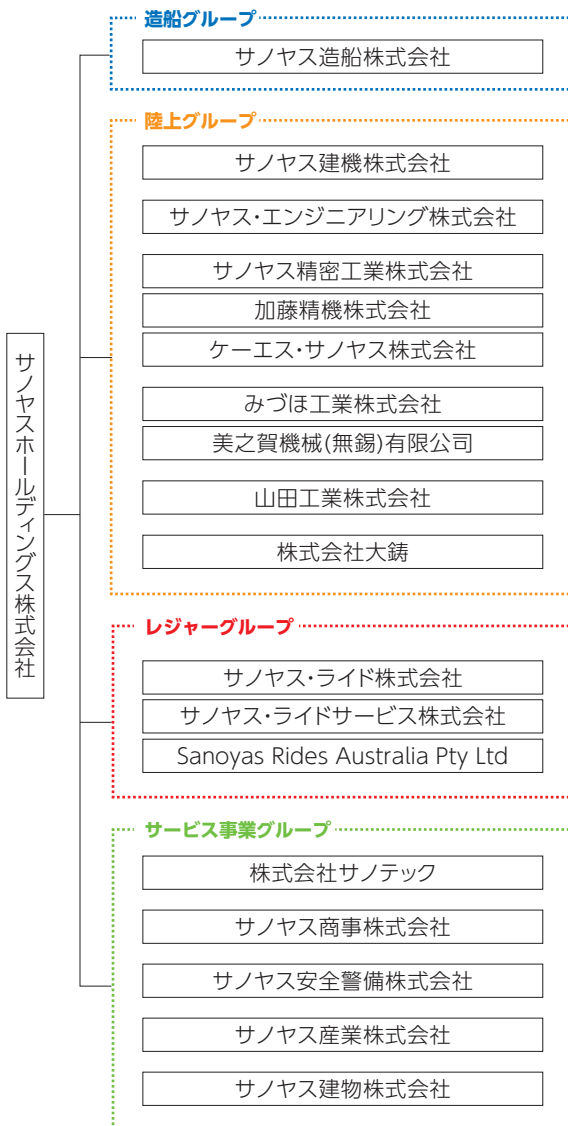
(注)持株比率は、自己株式(22,478株)を控除して計算しております。

役員一覧 (平成27年6月23日現在)

代表取締役会長	落合 諒	取締役 倉持 貴好	常務執行役員 渡邊 義則
代表取締役社長	上田 孝	取締役 前野 嘉孝	常勤監査役 桐野 恭至
代表取締役専務執行役員	浅間 成人	取締役 松本 裕之	常勤監査役 松田 武郎
取締役	衛藤 博司	取締役 小島 孝夫	監査役 平野 豊三郎 [※]
取締役専務執行役員	山本 周平	取締役 谷口 哲郎 [※]	監査役 中尾 誠 [※]
取締役専務執行役員	北川 治	取締役 森 薫生 [※]	監査役 山田 茂善 [※]

※は社外役員を表します。

サノヤスグループ一覧



沿革

- 明治44年 4月 — 佐野安造船所創業
- 昭和15年 6月 — 佐野安船渠株式会社 設立(資本金150万円)
- 42年 6月 — 大阪証券取引所市場第2部上場
- 48年 4月 — 資本金14億3,000万円に増資
- 49年 1月 — 水島造船所操業開始
- 49年 2月 — 大阪証券取引所市場第1部上場
- 59年 8月 — 株式会社サノヤスに社名変更
- 平成 2年 10月 — 株式会社サノヤスと菱野金属工業株式会社が合併
- 3年 4月 — 株式会社サノヤスと明昌特殊産業株式会社が合併
— 株式会社サノヤス・ヒシノ明昌に社名変更
- 19年 3月 — 資本金25億3,800万円に増資
- 23年 4月 — 創業100周年を機にコミュニケーションネームとして「Sanoyas」を設定
- 23年 10月 — 単独株式移転により持株会社 サノヤスホールディングス株式会社設立
- 24年 1月 — 持株会社 サノヤスホールディングスと事業会社による新組織体制をスタート
- 25年 7月 — 東証と大証の現物市場の統合にともない東京証券取引所市場第1部上場
- 25年 7月 — Sanoyas Rides Australia Pty Ltd 設立
- 26年 12月 — サノヤス精密工業株式会社設立
- 27年 3月 — 株式会社大鋳を買収

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-782-031
(平日午前9時～午後5時)

(インターネットホームページ)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

